

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 34 週 (8 月 21 日～8 月 27 日)

今週のコメント

～ RS ウイルス感染症 ～ さらに流行が拡大 手洗いの励行を

定点把握感染症

「RS ウイルス感染症 増加つづく」

第 34 週は前週比 9.4%増の 2,390 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、手足口病、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.3、2.7、2.2、1.3、0.9 であった。

感染性胃腸炎は前週比 21%増の 655 例で、中河内 5.3、泉州 4.3、南河内 4.0 の順である。

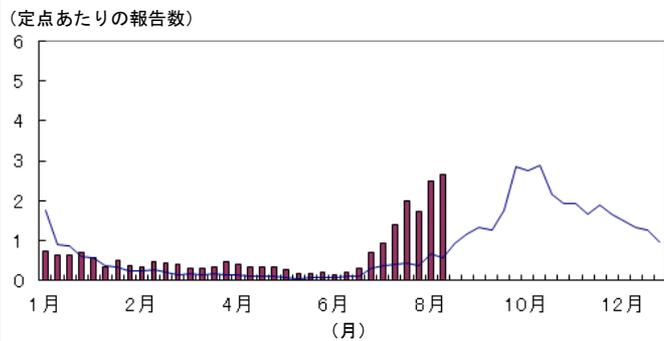
RS ウイルス感染症は前週比 8%増の 534 例で、南河内 4.6、大阪市西部・北部 3.6 であった。0 歳 205 例、1 歳 203 例で、2 歳未満が 76%をしめ、低年齢に多いのが特徴である。

手足口病は前週比 11%減の 438 例で、南河内 5.2、大阪市西部 3.6、大阪市南部 2.7 の順である。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 33%増の 251 例で、豊能・大阪市西部 1.8、泉州 1.7 であった。

ヘルパンギーナは 12%増の 183 例で、中河内 1.9、北河内 1.3、大阪市西部 1.2 の順であった。

RS ウイルス



手足口病

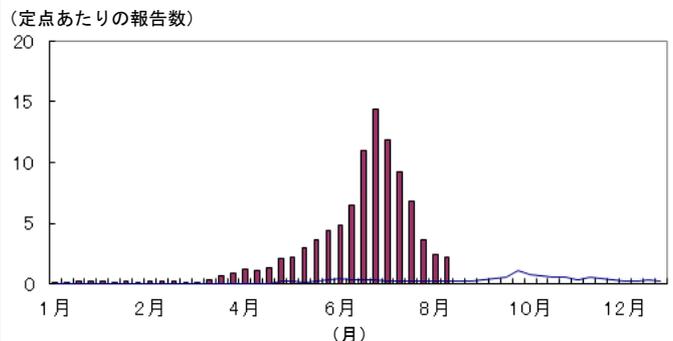


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29)年 第 34 週 8 月 21 日-8 月 27 日)

第 34 週 の順位	第 33 週 の順位	感染症	2017 年 第 34 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 34 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 34 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.3	21%増	3.9	1 歳_17%
2	2	RS ウイルス感染症	2.7	8%増	0.6	0歳_38% 1 歳_38%
3	3	手足口病	2.2	11%減	0.3	1 歳_30%
4	4	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.3	33%増	1.2	5 歳_15%
5	5	ヘルパンギーナ	0.9	12%増	0.7	1 歳_32%

第 34 週のコメント

～ アメーバ赤痢 ～ 発展途上国に渡航される方は、生水、氷に注意し、野菜、肉類を生で喫食しないようにしましょう

全数把握感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は、原虫である赤痢アメーバ (*Entamoeba histolytica*) を病原体とする感染症である。世界で、約 5 億人が感染し、毎年約 4-7 万人が死亡している。発展途上国への渡航者によくみられる感染症だが、国内では男性同性愛者間での感染が多い。感染経路として、汚染された飲食物による経口感染や性的接触による感染がある。大腸粘膜面に潰瘍性病変を形成し、粘血便を主体とする赤痢アメーバ性大腸炎を発症させる。大腸炎症例のうち 5%ほどが腸管外病変を形成し、大部分は肝膿瘍である。

感染症疫学センターはこちらへ(外部リンク)

感染症の話(国立感染症研究所)

(週別報告数)

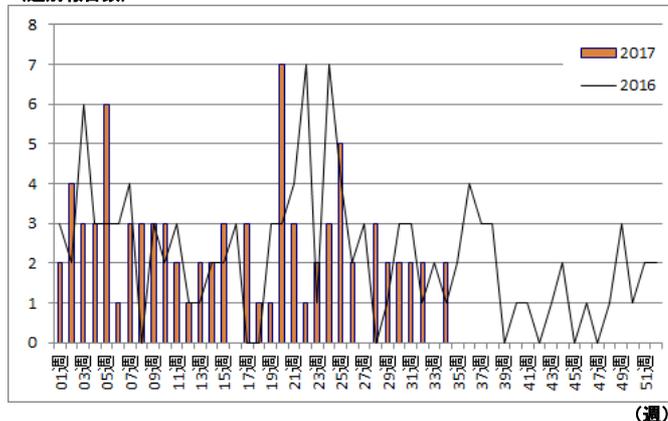


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 34 週 8 月 21 日-8 月 27 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

1類感染症	報告はありません
2類感染症 (結核は除く)	報告はありません
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 12名 (北河内ブロック 6名、堺市 1名、 泉州ブロック 3名、大阪市 2名、府内累積報告数 97名)
4類感染症	デング熱 1名 (泉州ブロック 1名、府内累積報告数 10名) レジオネラ症 2名 (北河内ブロック 1名、大阪市 1名、府内累積報告数 47名)
5類感染症 (麻しん、風しんは除く)	アメーバ赤痢 2名 (北河内ブロック 1名、大阪市 1名、府内累積報告数 82名) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2名 (豊能ブロック 1名、中河内ブロック 1名、府内累積報告数 82名) 急性脳炎 1名 (南河内ブロック 1名、府内累積報告数 28名) 梅毒 3名 (豊能ブロック 1名、大阪市 2名、府内累積報告数 465名)
結核 (2017年7月分)	結核 新登録患者数:183名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 86名) (府内累積報告数 1127名、内 肺・喀痰塗抹陽性 470名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2017年8月29日 集計分)